



消防大学校だより

救急科(第73期)

消防大学校では、平成23年10月6日から11月25日まで、救急業務の指導的立場にある職員の資質の向上を目的に、救急科第73期を実施しました。全国の消防本部等から選抜された救急隊長等の職にある36名は、設定されたカリキュラムに積極的に取り組みました。

出場件数の急増、医療との連携による円滑な搬送体制の構築等、救急業務は多くの課題を抱えています。学生は、救急業務の指導者として求められる知識、技術の習得に努めるとともに、その職責、心構えについても認識を深めました。

研修では、消防庁消防・救急課救急企画室による救急行政の動向や研修前に通知された「ビデオ喉頭鏡」の活用をはじめ、最新の救急医療の動向に関する講義、救急需要対策や医療との連携に係る先進的な消防本部の取組に関する講義と現地視察等を実施しました。このほか、部下に対して論理的な指導や円滑な救急活動が実践できるよう、リーダーシップ論、教育技法、説得技法、そして接遇に関する講義、演習等も実施しました。

これらのカリキュラムに加え、課題研究の授業では、各学生が救急業務を遂行する上での問題点について自らテーマ設定を行い、現状、課題、解決策等について整理、検討を行いました。研究成果については、パワーポイントの作成要領や統計学の講義内容を活かして説得力のある資料を作成し、全員の前で発表しました。また、訓練企画運営の授業では、研修の集大成として各班単位に救急訓練の想定作成を行い、実際に他の班を実施隊として想定付与し、訓練結果についての検討会を開催、評価するという一連の流れにより2日間にわたって実施し、訓



NBC救急対策講義
(杏林大学医学部山口講師)

練指導技術の向上方策について学びました。

約2か月の研修期間、学生は多彩なカリキュラムに真剣に取り組むとともに、寮生活においても各消防本部の現状及び救急業務が抱える課題等について熱く語り合い、全国的な絆を育みました。

教育訓練を終えた学生からは、「研修で学んだ指導者、リーダーとしての資質、考え方、身の振る舞い方をこれから所属で実践していきたい。」「課題研究発表で他の本部の抱えている問題点や考え方を知ることができ、今後の活動に生かしたい。」「訓練企画から運営までの流れと着眼点について理解し、検討会の重要性を学ぶことができた。」などの意見がありました。

救急科第73期の卒業生36名は、全国各地の消防本部等における救急業務の指導者として、若手の育成、医療との連携、業務高度化への対応等様々な場面での活躍が期待されます。



救急訓練運営



横浜市消防局警防部司令課(ディスパッチシステム)視察

消防団長科(第60期)

消防大学校では、消防団の上級幹部に対してその職に必要な知識及び能力を総合的に修得させることを目的に、平成23年12月5日から12月9日までの5日間、消防団長科第60期を実施し、全国から入校した団長又は副団長の階級にある24名が共に学びました。

座学では、久保信保消防庁長官の「消防行政の当面の課題」、秋本敏文日本消防協会理事長の「消防団幹部のあり方」等についての講義、さらには、東日本大震災を踏まえた消防団活動の今後のあり方や消防団幹部として必要な知識・指導力・安全管理について、各方面の講師から専門的な講義を受けました。

消防運用に関しては、指揮シミュレーション訓練を行



指揮シミュレーション訓練



消防庁消防防災・危機管理センター

い、震災時における円滑な部隊運用や消防署隊との連携を確認しました。

また、課題・事例研究では、各消防団の現状と課題についてグループ討議や発表を行い、東日本大震災での消防団活動、消防団による啓発活動や団員の確保、女性消防団活動とその指導方法等、様々な課題に対して熱心に意見交換を行いました。

研修を終えた学生からは、「今までにない経験・感動・勇気をもらい、今後も消防団という絆を大切にしたい。」「消防団活動の意義を再認識することができた。」など、多くの前向きな意見が寄せられました。

今後は、これまでの経験や実績に加え、今回の研修で修得した知識・技術を十分に発揮して、地域の安心と安全のために、更なる活躍を期待します。

自主防災組織育成短期講習会

消防大学校では、自主防災組織教育指導者に対する教育のあり方に関する調査研究の一環として、平成18年度に作成した指導教本の普及及び効果検証を行うとともに、地方公共団体における自主防災組織の指導・育成を支援するため、自主防災組織育成短期講習会を平成19年度から開催しています。

今年度は、平成23年10月13日に消防大学校で、11月10日に福岡県北九州市で計2回開催し、全国各地から地方

公共団体の職員113名（都道府県11名、市区町村64名、消防本部30名、消防学校8名）が受講しました。

講習会は、講義及び演習の2本立てで構成しており、午前中は、消防庁国民保護・防災部の山口英樹防災課長による「自主防災組織の目的・役割」、山口大学大学院の瀧本浩一准教授による「地域防災力の再生と向上」の講義を行い、午後は、演習として「図上訓練（DIG手法）」を実施しました。

受講者からは、「自主防災組織の目的・役割等今後の訓練の参考となることを学ぶことができた。」「「防災」の意味を再認識させられた。災害の発生する前を軽視しているということを痛感させられた。」「今後、自主防災組織の育成に努めたい。」「地域の実情に応じた組織の立ち上げ、マニュアル等の検討が必要。」「防災担当などを対象に、訓練指導に必要な技術習得のための研修をもっと増やしてほしい。」など、多数の意見が寄せられました。

消防大学校では、今後も本講習会の結果を踏まえ、自主防災組織の指導・育成業務に必要な知識及び能力の一層の向上のため、地方公共団体の自主防災組織育成担当者に対する教育の充実等を行っていく予定です。

なお、本講習会や危機管理・防災教育科自主防災組織育成コースにおいて配布している「自主防災組織教育指



山口大学大学院瀧本浩一准教授による
講義「地域防災力の再生と向上」

導者用教本」は、消防庁のホームページ (<http://fdmc.fdma.go.jp/investigation/index.html>) からダウンロードできますのでご活用ください。



図上訓練 (DIG手法)



図上訓練 (DIG手法)

消防大学校成績優秀者(学生番号順)

科 名 (期)	氏 名	所属消防本部 (都道府県)
幹部科 (第27期) 10月25日～12月9日 65名	堀越 達也 齊藤 春夫 原山 研治 山田 郁夫 湯野 正基 甬亭 幸男 鈴田 雄一 中間 豊	越谷市消防本部 (埼玉県) 狭山市消防本部 (埼玉県) 東京消防庁 (東京都) 長岡市消防本部 (新潟県) 小松市消防本部 (石川県) 奈良市消防局 (奈良県) 長崎市消防局 (長崎県) 鹿児島市消防局 (鹿児島県)
救急科 (第73期) 10月6日～11月25日 36名	畠山 光 東 貴之 杉本 恭伸 頼定 誠	気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部 (宮城県) 伊奈町消防本部 (埼玉県) 江南市消防本部 (愛知県) 岡山市消防局 (岡山県)